

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 10 日現在

機関番号：34304

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770216

研究課題名（和文）小学校英語指導者が英語力・指導力を習得するための自己研修に関する研究

研究課題名（英文）Competencies and Self-Study Activities for Japanese Elementary School English Teachers

研究代表者

松永 舞 (MATSUNAGA, Mai)

京都産業大学・共通教育推進機構・教授

研究者番号：30351571

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は小学校教員が英語指導のために必要な英語力・指導力を身につけるための効果的な自己研修内容・方法を提案することを最終目的とした。そこでまずアンケートを用いて、現職小学校教員の英語力・指導力に関する自己評価レベルと必要だと感じるレベル差を調査した。その結果、教員の多くは現状の英語力と指導力は英語指導には不十分であり、自己研修が必要であると考えていることが分かった。さらに同アンケートで自己研修に関して調査し、教員の多くが理論的内容よりも実践的内容に関する自己研修を望んでいることが分かった。アンケート結果をもとに、多忙な小学校教員でも実施可能な自己研修内容を理論面・実践面の両方から提案した。

研究成果の概要（英文）：This study examined the results of a survey study that explored Japanese elementary school teachers' perceptions of their current and desired levels of English proficiency and teaching skills, and their attitudes and experience with self-study activities that may help improve their English ability and teaching skills. Regarding English abilities and teaching skills, gaps were found consistently between the current and desired levels, showing higher levels for the desired. In other words, the participants evaluated their current levels of English proficiency and teaching skills inadequate to teach English to a sufficient level. In regard to self-study activities, the results of the survey suggest that the teachers tended to prefer learning practical skills to theoretical knowledge. Researchers are responsible for providing information on effective self-study activities for teachers to improve their English ability and teaching skills to a sufficient level.

研究分野：英語教育（小学校英語教育）

キーワード：小学校英語指導者 学級担任 自己研修 英語力 指導力

1. 研究開始当初の背景

2011年度より小学校5.6年生の週1回の外国語活動(英語活動)が必修化し、指導計画の作成や授業の実施に当たっては、学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が行うことになった。つまり学級担任は主な指導者となった。一方で、多くの研究者(例:パトラ(2005)『日本の小学校英語を考える』東京:三省堂、樋口他(2005)『これからの小学校英語教育 理論と実践』東京:研究社)は主たる指導者である学級担任のほとんどが英語教育の専門家ではないことから彼らの英語力及び指導力に対する不安を訴えてきた。このような状況をふまえ、学級担任が小学校英語指導者として必要な英語力・指導力を習得するための研修が不可欠であることは言うまでもなく、例えば文部科学省は2011年度の必修化をふまえ、独立行政法人教員研修センター主催の中央研修、各都道府県教育委員会を中心とした中核教員研修、各小学校で行われる校内研修という3段階の伝達講習という形で教員研修を実施した(独立行政法人教員研修センター(2009)『09つくば研修ガイド』)。また、各地域の教育委員会主催の小学校教員全般を対象とした研修等も行われてきた。しかし、このような一般的に行われてきた集団研修のみでは学級担任が必要な英語力・指導力を身につけるには不十分であり、課題が残るということが分かった(松永 舞(2010) Results of Pilot Tests that Measure Competencies of Japanese English Teachers in Elementary Schools, *SELT*, 33, 11-20.)

2. 研究の目的

学級担任が小学校で英語を指導するために必要な英語力・指導力を習得することを目的とし、これまで行われてきた公的あるいは民間レベル(学会等)の集団研修には一定の効果はあるものの、時間的制約や個人差も大きく、小学校英語指導者として必要な英語力・指導力を十分に習得するには課題が残る。そこで本研究は指導者自身による自己研修の可能性に着目し、必要なレベルの英語力・指導力習得のための効果的な自己研修の内容・方法を提示することを目的とした。

3. 研究の方法

3年間で以下の(1)~(3)の方法を用いて研究を進めた。研究対象は公立小学校4校の教員80名であった。なお、これら4校はいずれも一般的な英語活動(5・6年生で週1回授業程度)を行っており研究開発校等ではない。80名の英語指導経験年数は様々(未経験から4-5年の経験)であったが専科教員は含んでいない。

- (1) 現職小学校教員を対象としたアンケートを作成、実施、分析
アンケートは「英語力・英語指導力のレベ

ル」に関する項目と「英語力・英語指導力を習得するための自己研修」に関する項目の2分野からなる。

「英語力・指導力」に関する項目

英語力は、リスニング&スピーキング、話すときの文法、発音、リーディング、ライティングの5項目をレベル1(低)~6(高)で自身の現状レベルを自己評価、また小学校で指導するために必要だと考えるレベルを同様に評価してもらった。指導力は指導力全般、学習者のレベルに合わせた指導、教室英語の使用、英語を使って活動を進める、の4項目をレベル1(低)~4(高)で自身の現状レベルを自己評価、また必要だと考えるレベルを評価してもらった。

「英語力・英語指導力を習得するための自己研修」に関する項目

これまでに試した自己研修内容、効果があると感じた内容、必要だと感じる内容、自由記述の4項目で調査した。研修内容は選択肢から選ぶ形式を採用し、選択肢はリスニング教材、スピーキング教材、リスニングとスピーキングが一緒になった教材、英語のテレビやラジオ番組の視聴、発音練習教材、教室英語練習教材、リーディング教材、英語の雑誌や新聞を読む、ライティング教材、文法教材、英検やTOEIC等の資格対策教材、テレビやラジオの英語関連講座(NHKなど)、ゲーム活動アイデア集、歌やチャンツ集、英語絵本、電子黒板等のICT教材使用、英語活動の理論や授業運営に関する専門書、公的機関や学会主催の研修会やワークショップへの参加、その他、と理論面と実践面を多岐にわたって網羅するよう考慮した。

(2)(1)のアンケート分析結果をもとに、「小学校英語指導者の英語力・指導力の現状と課題」を把握する

(3)(1)および(2)をもとに、必要な英語力・指導力を身につけるための「効果的な自己研修内容・方法」の提案を行う

4. 研究成果

以下の4点を研究成果とする。

(1)「3. 研究の方法」(1)のアンケートの結果から、現職小学校教員(80名)の多くが現在の自身の英語力(リスニング&スピーキング、話すときの文法、発音、リーディング、ライティングの5項目全て)は小学校で英語を指導するレベル(必要だと思うレベル)には足りない、と評価していることが分かった。同様に英語指導力(指導力全般、学習者のレベルに合わせた指導、教室英語の使用、英語を使って活動を進める、の4項目全て)も必要なレベルには達していないと評価した。これらの結果は一般的に行われてきた集団研修のみではやはり現職教員が必要だと考えるレベルの英語力・指導力の習得には不十分であることを改めて示した。

(2) 同アンケートの「自己研修」に関しては、ほとんどの教員が自己研修の必要性を認識しているが(99%)、実際に割ける自己研修時間は皆無か(47.5%)週1時間程度(41.3%)であり、小学校教員の多忙ぶりをうかがえる結果となった。また、自己研修として理論的な内容よりも実践的内容(授業内で使用する活動や自身のスピーキング力向上等)により興味があることも分かった。特にゲーム活動アイデア集(83.8%)、スピーキング教材(75%)、発音練習教材(56.3%)、歌やチャンツ集(55%)、リスニング教材(55%)、教室英語練習教材(42.5%)等を自己研修する必要があるとの回答が多かった(選択肢から5つ選んで回答)。

(3)(1)および(2)の結果をふまえて、現職小学校教員が現実的に無理なく続けられる自己研修内容として、1年間程度を目安として、週2回30分程度ずつ、理論的側面(英語活動の理論(背景・目的・指導者の資質・学習理論等)や授業運営に関する知識(カリキュラム・授業案・教材作成等)の習得、公的機関や学会主催の研修会やワークショップへの参加等)と実践的側面(リスニング、スピーキング、発音、教室英語等)をバランスよく学習する提案を行った。現職教員は理論的側面よりも実践的側面を重視する傾向があるが、効果的な実践は理論に裏付けされたものであることを踏まえ、あえて専門家の視点から理論的側面も提案した。教員が明日の授業で使える内容(実践的側面)を重視することは当然であるが、効果的な実践を考えると、なぜこの活動をこの順序で行う必要があるか等の理解(理論的側面)が不可欠である。

(4) 自由記述

アンケートの最後に「英語活動のための自己研修に関してご意見・ご要望・疑問等がございましたら自由にお書きください。」という自由記述項目を設けた。11名しか(80名中)記述がなかったため回答を一般化することはできないが、回答の傾向として2種類に分類できた。まず一つ目は自己研修の重要性は認識しているが多忙なため、週1回の授業でしかない英語活動のために多くの準備時間を割くことは現実的ではない、という意見である。この意見は当然であり、本研究の自己研修内容の提案もこの現実を反映した内容になるよう、1年間程度で効果を実感できる、週1時間程度(30分程度を2回)の理論面、実践面の学習内容となるよう配慮した。もう一方は、自身の英語力・指導力不足を認識しているものの現状の英語活動をこなすだけの担任としての学級運営能力があるので、英語力・指導力不足を補っている。よって英語活動のためにこれ以上の準備や自己研修は必ずしも必要ではない、という意見も目立っ

た。言い換えると、英語活動の指導開始当初は新しいことであり戸惑いもあったが、慣れてくると学級担任としての高い授業運営スキルによって英語活動の指導もある程度問題なく行えるようになり、よってこれ以上の努力をするよりも現状維持でよいと考えていると思われる。また、英語活動の授業は主に日本語で進めているとの回答も多かった。この慣れからくる現状維持の気持ちは、多くの教員が英語教育の専門家ではないこと、多忙な環境で働いている現状を考えると自然である。また小学校英語が現状のまま(教科にならずに)進むならば大きな問題にはならないのかもしれない。しかしながら、次期学習指導要領では(2020年度から実施)小学校での英語学習が3年生から必修となり(3-4年生は週1回の英語活動)、5年生からは教科化され授業時数も増えること(5-6年生は教科として週2回)を考えると、そして主な指導者は学級担任のままであることを視野に入ると、現状維持では対応できないと想像できる。そのため、次期学習指導要領を視野に入れて、現職教員に必要な英語力・指導力のレベルを明示し、集団研修、自己研修を通して必要な英語力・指導力を習得するよう指導することが必要である。その際、アンケートの自由記述から、現職教員の自己研修の必要性に対する意識を高めていくことが重要であることが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

Mai Matsunaga (2016), "Competencies and Self-Study Activities for Japanese Elementary School English Teachers", Selected papers from the 25th international symposium on English teaching, ETA-ROC (English Teachers' Association Republic of China), 424-435. (査読有)

Mai Matsunaga (2016), "A Survey Study on English Proficiency and Teaching Skills for Teaching English in Japanese Elementary Schools", JACET 関西紀要, 第18号, 66-85. (査読有)

Mai Matsunaga (2014), "Training Sessions on Classroom English for Pre-service Teachers in Japan", Proceedings of the 21st annual KOTESOL international conference 2013, KOTESOL (Korea Teachers of English to Speakers of Other Languages), 195-204. (査読有)

Mai Matsunaga (2014), "Practical Training Sessions on Classroom English for Pre-service Elementary School Teachers in

Japan ”, 英語教育研究(SELT),第 37 号,1-20.
(査読有)

[学会発表] (計 4 件)

Mai Matsunaga, “ Competencies and Self-Study Activities for Japanese Elementary School English Teachers ”, 25th international symposium on English teaching, ETA-ROC (English Teachers' Association Republic of China), 2016 年 11 月 12 日, 台北 (台湾)

Mai Matsunaga, “ A Survey Study on English Proficiency and Teaching Skills for Teaching English in Japanese Elementary Schools ” 2015 年度 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部春季大会, 2015 年 6 月 27 日, 大阪教育大学天王寺キャンパス西館 (大阪府大阪市)

Mai Matsunaga, “ Training Sessions on Classroom English for Pre-service Teachers in Japan ”, KOTESOL (Korea TESOL), 2013 年 10 月 12 日, ソウル (韓国)

松永 舞 「教職課程の大学生を対象とした効果的な教室英語の練習方法と自己効力感に関する実証的研究」, 関西英語教育学会 (KELES), 2013 年 6 月 9 日, 関西国際大学 (兵庫県尼崎市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松永 舞 (MATSUNAGA, Mai)
京都産業大学・共通教育推進機構・教授
研究者番号 : 30351571

(4) 研究協力者

田邊 義隆 (TANABE, Yoshitaka)
近畿大学・法学部・准教授